

授業特別協力者(ゲストスピーカー)報告書

テーマ : 女川の町づくりと今後
授業特別協力者名 : 阿部 善英 氏
実施日時 : 2021年7月2日(金)1時限
担当教員名 : 中村 亨
授業科目名 : ベーシック演習
実施場所 : 5502 教室
履修者数 : 15名

実施結果

2011年3月11日の震災後、庁舎を流され職員も被災している町の行政をあてにせず自力で立ち上がるという機運が、漁業関係者、水産加工業者、町で商店を営む商業従事者という業種の垣根を越えて生まれました。その結果、女川町の差し迫った課題に行政と協力しつつ取り組む民間団体、復興連絡協議会(略称FRK)が発足し、新聞配達店を営んでいた阿部さんは、町の若手に運営を託されたその団体の中心メンバーの一人となりました。

津波で町も商店街も流されたあと、阿部さんと商店経営者の方たちは町のグラウンドで青空市を開催し、さらにコンテナを店舗として利用し仮設商店街を立ち上げました。

そして震災翌年の2012年夏には、町の復興プラン策定のために阿部さんと何人かの町の代表は、街づくりの専門家の話を他の被災地の人たちと一緒に聞いて策を練る、復興まちづくりブートキャンプに参加しました。そこで聞いた「復興まちづくりは、津波で価値を棄損したエリアの価値を再び高めること」という言葉が強く印象に残っているそうです。ブートキャンプにおいて実際に復興プロジェクトを企画し実行するよう促され、阿部さんと何人かの参加メンバーは「復幸まちづくり合同会社」という会社を新たに立ち上げました。

「復幸まちづくり合同会社」は現在に至るまで活発に事業を展開し、阿部さんとFRKの尽力で完成した新しい女川駅前商店街の一角に「あがいんステーション」という施設を構えて、女川ブランドの特産品販売や水産加工体験の提供などを行っています。

現在まで町の活性化を牽引されてきた阿部さんは、被災した町に人を呼び込むために、次のように考えてこられたそうです。まず、ボランティアや女川出身者や被災地視察など消費活動そのものを目的としない訪問者を増やす。そうして人が集まれば、おのずと飲食店や商店の利用者が増えるだろう。すると結果的には町に面白い人や訪問者が増え、商業エリアに活気が生まれるはずだ、という考えです。

昨年来のコロナ感染症の流行を契機に、町を活気づける戦略を新たに練り直すためFRK2が発足し、阿部さんはその会長に就任されました。十年前の未曾有の震災をバネに一から新たな街づくりに関わってこられた阿部さんは、女川の今後の発展についてもとても意欲的で、全体として聞いて元気づけられるお話でした。